資料１－３

評価の論点（案）

【論点１】システム構成の妥当性に係る評価について

複合システムというシステム構成案について、文部科学省は妥当であるとの評価結果を出しているが、作業部会での検討において、複合システム開発の困難性、開発スピード、開発コスト等の観点から、選択の最適性について不明確な点はないか。また、世界のトップであることを確認できる項目として、新たに目標としたＨＰＣＣ－Ａｗａｒｄ４項目で首位を奪取するという目標設定は妥当なものであるといえるか。

【論点２】目標達成に向けての的確なフォローアップについて

文部科学省による評価においても、いくつかの点について課題を指摘しているところであるが、目標の達成に向けて研究開発の隘路を明確にした上で、十分な対策を講じるとともに、研究開発の進行状況についてのチェックポイントを整理し、的確なフォローアップを実施していくべきではないか。

特に、トータルシステムソフトウェアの開発については、文部科学省の評価において「詳細設計段階で十分な検討を期待する。」としており、適切な時期に作業部会としてしっかりとフォローするべきではないか。

また、開発するシステムの活用により解決すべき実課題を具体的に設定し、そのマスタースケジュールの中での本プロジェクトの位置付けを明確に意識して研究開発を進めるべきではないか。

【論点３】プロジェクトの推進体制について

本プロジェクトは産学官の協働によるオールジャパン体制で進めることとしているが、官中心という印象が強い。特にシステム開発においては、企業の関与、参加が重要な役割を果たすものと期待される。また、複数企業グループによる連携開発体制が必要である。このことから、プロジェクトを効果的に推進するためには、企業の参画及び連携に関するコミットを組み込んだプロジェクト運営が必要ではないか。

【論点４】海外との競合への対応について

世界におけるスーパーコンピュータの開発動向は非常に流動的であり、技術開発の進歩は予想以上にテンポが速いことから、世界最高速、最高性能を目指すためには、海外の競合相手の動向に常に目を配りつつ、研究開発目標の妥当性について、適時適切に検討を行い、必要に応じて見直しを行っていくような対応が必要ではないか。